

〈調査報告〉

ネコに殺されそうになった友人を助けた男の話

北海道立アイヌ民族文化研究センター

研究紀要

第11号

2005年3月25日発行

大谷 洋一

〈調査報告〉

ネコに殺されそうになった友人を助けた男の話

大 谷 洋 一

- 目次
1. まえがき
 2. 凡例
 3. あらすじ
 4. 本文

1. まえがき

本稿は、上田トシ氏が伝承していた物語のアイヌ語テキストとその対訳である。上田氏は1912(大正1)年10月3日、沙流郡平取町ペナコリで生まれ、現在は同町旭に在住している。上田氏は『萱野茂 アイヌ語会話一初級編一』(カムイト^{ラノ}協会、1987年)や『アイヌ語日常会話集I 凍ったミカン』(片山言語文化研究所、1992年)などのビデオ教材に講師として出演したり、さまざまな機関や研究者の要請でウエペケレの口演を精力的に行ってきたアイヌ語沙流方言の話し手である。上田氏の略歴や人柄などについては『上田トシのウエペケレ』(財団法人アイヌ民族博物館編、1997年、CD付き)に詳しい。

上田氏が口演する物語の伝承元は主に姉の木村キミ氏(1900~1988)であるが、友人の西島テル氏(1896~1988)や小川シゲノ氏(1921~)⁽¹⁾などから聞かされたものもいくつかある。姉の木村氏は一時期ペナコリから門別町賀張に移り住んでおり、その地元出身の老人とアイヌ語の物語を語り合う機会があったことを上田氏は姉から聞かされていた。したがって木村キミ氏が伝承する物語の中には、このときに覚えたものも含まれているかもしれない。

今回紹介する物語は、上田トシ氏が「イシカリ ウエペケレ⁽²⁾」と呼称してから口演したものである。この物語は平取町の荷負・貫気別辺りのアイヌ語方言研究の素材となるほか、信仰に関する重要な情報を含んでいる。例えば、主人公が旅行中に休憩する場所として大きなハルニレの木の

(1) 大谷洋一「小川シゲノから上田トシへの伝承」、「同2」、「同3」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3~5号、北海道立アイヌ民族文化研究センター、1997~1999年。

(2) 上田氏はイシカラ ウエペケレ iskar uwepeker と発声することもある。

下を選んで身の安全を祈って祀ることや、ドジョウやキリキリチェッポ（魚ではあるが和名不明⁽³⁾）が会話しているのを人間の言葉として理解した場面などは、現実の世界でもありえることとして上田トシ氏は認識している。動植物の発する声や音が人間の声として聞こえる現象を上田氏はアイヌ語でオハイヌ oha 「空^{から}」 inu 「聞く」と表現するが、このことについては従来知られているデータは少ない。この現象がどのような状況で発生し、その声人間にどのように作用したのかを比較分析するための貴重な事例が語られている点で、本編は貴重なウウエペケレである。

このウウエペケレの類話として、まったく同じあらすじのものは今のところ見当たらない。ネコが登場するものでアイヌ語原文が対訳で報告されているものとしては、「ヨサンポロのウウエペケレ」（平取の西島テル氏伝承）『昭和63年度 アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査Ⅷ）』（北海道教育庁、1989年）と澤井春美「にわとり神の自叙伝」（本別の沢井トメノ氏伝承）⁽⁴⁾ 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要第2号』（北海道立アイヌ民族文化研究センター、1996年）がある。前記の「ヨサンポロ」は「ヨサプロウ」というシャモ（和人）の名前であり、後記の物語においても登場人物は全てシャモである。上記の2編に登場するネコは、飼い主夫婦のうち奥さんの方を殺害した後でその奥さんの姿に変えて生活するのであるが、やがてよその人に見破られて殺されるという結末である。これらは日本各地で伝承されている化け猫の話⁽⁵⁾ と同じような内容である。一方、上田氏の語ったウウエペケレには和人が登場しない。また、ネコが殺そうとしたのは飼い主の妻ではなく夫であること、ネコが暗殺に失敗したことにより人間に化ける場面に至らないことなどがネコの登場する他のウウエペケレと異なっている。

このウウエペケレに関する採録調査の経緯は以下のとおりであり、採録した音声資料3点は北海道立アイヌ民族文化研究センターが保管し、全て平成18年度公開を予定している。

- ①1996（平成8）年5月11日、千歳市蘭越の中本ムツ子氏（千歳アイヌ文化伝承保存会会長）の自宅において、筆者が上田トシ氏と面談した際に本編のウウエペケレを伝承していることを知り、月末に採録させてもらうように筆者が依頼した⁽⁶⁾。
- ②1996（平成8）年5月31日、平取町旭において、上田トシ氏から本編のウウエペケレを初めて採録（音声資料 CC000344）する。アイヌ語原文はこの音声資料を文字化した。
- ③1996（平成8）年6月27日、平取町旭において、上田トシ氏から本編のウウエペケレの再演（音声資料 CC000345）と物語中のアイヌ語の意味等について伺った（音声資料 CC000346）。

(3) 上田氏がこの物語を聞いたのはただ一度だけであり、姉からキリキリ チェッポ kirkir ceppo の意味は教わっていない。上田氏はこの言葉の意味を萱野茂氏に訊ねると「ヤマベでないべか」という推測による回答を聞いたという（音声資料 CC000344）。『萱野』を参照すると、「ヤマベ（サクラマス）」は「キッレッポ kikkreppo」と記されている。筆者は平取や門別に在住する他のアイヌ語話者3名に訊ねてみたがこの言葉を知っている人はいなかった。

(4) この物語ではネコが悪者として語られているがこの調査報告のあとがきによると、沢井トメノ氏は「良い根性の猫の昔話 ビッカネコのウチャシコマ」も伝承しているという。

(5) 稲田浩二・小澤俊夫（編）『日本昔話通観1 北海道（アイヌ民族）』同朋舎（1989）

(6) 筆者は語り手から採録する場合、物語をより流暢に語ってもらうために練習期間を設定することが多い。

④2004（平成16）年11月13日と12月18日、物語中のいくつかの不明語彙について話を伺った。

本稿のアイヌ語音声の文字化やアイヌ語の意味解釈などで、モニターとなっていただいた方々から多くのご教示をいただきました。記して心から感謝いたします。

2. 凡例

(1) 本文の構成

二段組として、左側にアイヌ語による語りの部分、右側にその日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

(2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタッ』（1994年）の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音がついたりする場合があるので、それが比較的目立つ場合はそれに近い音を記した。また特に長く伸びた音には「ー」を記した。例：コロ《…しながら》が「コル」や「コロー」、ピリカ《良い》が「ピルカ」や「ピリーカ」。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した。例：「ボン セタ」が「ポイ セタ」。

(3) ローマ字の表記

これも基本的に上記『アコロ イタッ』と同様に記した。話し手の言いよどみは（ ）で括ったり、後で話し手が言い直した形に置き換えたりした。地名などの固有名詞は語頭のみ大文字にし、日本語の場合は全て大文字で記した。単語の連なりで音素交替を起こしたところは、それぞれの単語を単独で発した場合の形で記した。例：「poyseta」が「pon seta」。

(4) よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句についてはその語尾に「??」を付けた。

(5) 註の説明で引用したアイヌ語辞典については、以下のとおり略して記した。

中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』草風館（1995） → 『中川』

田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館（1996） → 『田村』

萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂（1996） → 『萱野』

3. あらすじ⁽⁷⁾

イシカリの奥で私は妻と二人で心配事もなく暮らしていました。私がイシカリの河口へ働きに行くと、そこに住む村長と親しくなって交流していました。それからは私の方は子供がたくさん生まれたのですが、イシカリの河口の村長は子供がいませんでした。私は子供が大勢いたので、家を留守にしたくなくなり浜へ行きませんでした。ところが久しぶりに浜へ行きたくなったので、クマの

(7) 上田氏から日本語対訳やあらすじを採録していないので筆者がつけた。

干し肉を土産に持って出かけました。浜へ行く途中の川の土手に大きなハルニレが立っていて、そこでいつも休憩したり、ハルニレの木を祀ったりしていました。そのハルニレの木のところへ着くと、最初にハルニレに食べ物を撒いてから自分も食事しました。

川の方を眺めていると、川下から大きなドジョウが来て、川上からは大きなキリキリチェッポが下りて来ました。魚たちは川の中で一緒に休んでいるように見えました。そのうちにドジョウとキリキリチェッポが会話する声が聞こえました。「山で何か困ったことや良いことがありましたか？」とドジョウがキリキリチェッポへ話しかけると「山では何ごとありません。浜の方では何か困ったことや良いことはありましたか？」とキリキリチェッポが言いました。するとドジョウは「イシカリの河口で村長夫婦が暮らしていますが、子供がいないので一匹のネコを子供のようにして、大事に育てているのです。今晚そのネコが主人を殺して、その奥さんを妻にしようとたくらんでいるのです。イシカリの奥に住んでいる長者がそこへ行って、なんとかしないと村長が殺されてしまうのです。そのことだけが心配です」と言いました。その話を聞いて驚いた私は、河口に住む村長の危機について魚の神様の会話で知ることができたので、いろいろな神様に感謝し、ハルニレの木にも自分の身を守ってくれるように祈ってから急いで浜へ向かいました。

その途中で丈夫な杖を作り、それをついて歩きました。何年も通っていなかったのですが見慣れた道なので無事にイシカリの河口の村長の家に着いて、ノックをしました。奥さんが出て来て私を見ると、再び家に入りました。奥さんが「イシカリの奥に住む旦那さんが来ました」と言うと、村長が「さあさあ、入れろ、入れろ」といいました。私はかしこまって家に入りました。村長と私は互いに拝礼しました。部屋の片隅を見ると、大きなネコが丸くなって寝ていました。私はネコの動きに注意しながら村長とよもやま話をしました。私が山であったことを話すと、村長は海の仕事を話しました。背負って来たクマ肉の土産を渡すと、奥さんは喜んで海産物などと一緒に料理をしました。奥さんをご馳走を私や村長のお椀によそいました。そのお椀を炉縁に置くと、例のネコが起き上がって炉縁に沿って歩いてきました。ネコが村長のお椀をまたいだ時、お椀の中をネコが尻尾で掻き混ぜたのが見えました。私はそのお椀の中味をネコの食器に注ぎました。村長も私もご馳走に手をつけずに話していると、ネコは自分のお椀に入っている料理を食べました。食べ終えたネコは急にバタバタと暴れ始めたので、私は戸口に立てていた杖でネコをめった打ちにしました。

すると奥さんが激しく泣き叫びながら「子供のように思って可愛がっていたネコをこのようにするなんて。どうしてこんなひどいことをするのか」と言いました。私はめった打ちにして殺したネコを外へ捨ててから奥さんに「今晚、旦那さんがネコに殺されて、あなたがネコを夫にすることになるということを聞きで知ったので、このようにしたのだ。そのネコをあわれむというのなら今からでもネコを夫にするといい」と叱りつけました。イシカリ河口の村長は。「なにも知らずに私たちはいましたが、旦那さんのおかげで死なずにすみしました。ネコが私のお椀を越えたのを私は見えていましたが、なにも思わないでいたのです。私は旦那さんのおかげで命拾いましたのですね」と私に感謝しました。そうして初めて一緒に食事した後、例のネコを切り刻んで地面に掘った穴に逆さ

まに入れて埋めてしまいました。

そして、よもやま話をしながら私はしばらく泊まっていたのですが、自分の家のことが心配になってきたので村長に帰宅するつもりであることを伝えました。すると、村長は命を救ってくれたことに感謝しながらお礼の品々を出しました。私はそれを受け取らずにこのように言いました。「村長ほどの長者に後継ぎがないことを気の毒に思います。私の言うことを怒らずに聞いてください。私は子供がたくさんいるので、男の子と女の子を一人ずつ養子にあげてもいいと思っているのですが、どうでしょう？」すると村長も奥さんも大喜びで了承しました。村長は私に海で獲れたお土産を持たせてくれました。私は帰る途中、再びハルニレのところで休憩し、ハルニレの神様や水の神様に感謝してから家に帰りました。帰宅した私は妻に対して「イシカリの河口に住む長者へ自分の子供を養子に出したい」と言うと、妻も喜んで了承しました。

すぐに私は女の子一人と男の子一人を連れて浜の方へ行きました。ハルニレのそばで休んでから、イシカリの村長の家に着きました。子供たちは家に入ると、男の子は村長の腕の中に飛び込み、女の子は奥さんの腕の中に飛び込みました。子供には何も教えていなかったのに、そのような行動をした子供たちに私は驚きました。村長も奥さんも喜んで子供たちに何度も接吻しました。私が帰ろうとしても子供たちは後を追うこともなく、新しい両親の膝の上にいました。本当に驚きながら私は帰宅しました。

数ヶ月たってから、また村長のところへ行きましたが、子供たちは新しい両親と仲良く暮らしていました。私は何度も遊びに行ったり来たりしていました。今では私も年老いたので歩いて行くこともできませんが、成長した子供たちは互いに行き来して遊んだり、親孝行をしてくれるので私は安心して亡くなったのですと、イシカリの奥にいた長者が語った。

4. 本文

イシカラエトコ (咳払い) ウン、ウン アイヌ

Iskar etoko (un) un aynu

イシカリの奥に住む人間が

アネヒネ アナン ペネ ワ

a=ne hine an=an pe ne wa

私であって

ネツカ アエシキキラツ カ

nep ka a=esirkirap ka

なんの心配事も

ソモキノ アマチ トウラノ

somo ki no a=maci turano

なく、妻と共に

オカアン ペネ ヒケ

oka=an pe ne hike

暮らしていたところ

イシカラ プトゥフ ウン、ウン、ウン、

Iskar putuhu un, (un, un)

イシカリの河口へ

ネヅキ エ アラパ アンー コロ

nepkiearpa=an kor

私が働きに行くと

イシカラ プトゥフ ウン ニシパ トウラノ

Iskar putuhu un nispa turano

イシカリの河口に住む旦那さんと

ウコトウイエコロ アン ワ

ukotokuyekor=an⁽⁸⁾ wa

親しい友人になって

ウコネヅキアンー コロ オカ アン

ukonepki=an kor oka=an

一緒に働いていた⁽⁹⁾。

シーノ ウコトユ、トウイ、トウ、イエ コロ アンークル

sino ukotokuyekor=an kur

まことの親友に

アネ ヒネ オカアンペ ネ ヒネ ア

a=ne hine oka=an pe ne hine (a)

なって暮らしていた。

こんど、オラーノ オ、ヤイカタ アナク

KONDO orano (o) y McKay anak

それからの自分は

ポ カ ポロンーノ アコロー オラ

po ka porono a=kor ora

子供がたくさんできて

イシカラ プトゥフ ウン ニシパ アナクネ

Iskar putuhu un nispa anakne

イシカリの河口に住む旦那さんの方は

ポ サックル ネヤ イエ ヒ

posak kur neya ye hi⁽¹⁰⁾

子供のない人であるとかいうことを

アヌアッ オロワノ ポ、ポ

a=nu a p orowanopo (po)

私は聞いていたが、それからというもの

ヤイカタ アナクネ ポ カ ポロンノ

y McKay anakne po ka poronno

自分の方は子供をたくさん

アコロ ワ、ウ、ヒ オロワノ アナクネ

a=kor wa, (u) hi orowano anakne

持つことになってからは

(8) 上田氏に確認するとウコトクイエコロ ukotokuyekor 【自動詞】 uko-「互いに」 tokuye-「親友」 kor「～を持つ」の言い損ないと判明したので上田氏が訂正した語形でローマ字を記した(音声資料 CC000345)。『田村』によると tokuyekor は「～に親しい」という意味の他動詞である。ここではそこに動詞のとり名詞の数を変えない接頭辞 uko- が付いており、自動詞にはならないと考えられる。しかしここでは上田氏の人称接辞の付け方に準じて自動詞として記した。

(9) 上田氏に主人公たちがどのような仕事をしていたのか何うと、「雇いっっちゃうのか、出会うっちゃうのか、そのイシカラ プトゥッさ行って、ウコネヅキアンというんだから、やっぱり、昔でいえば雇い、シサム オッタ、雇いに使われた」と答えられた(音声資料 CC000345)。

(10) イエ ヒ ye hi がイエヒエのようにも聞こえる。

オハシロッパ ⁽¹¹⁾ カ、アー	
ohasiroppa ka (a)	家を留守にするのも
アー エトランネッ ネクス	
a=etoranne p ne kusu	気がすまないので
オラー、サナン カ ソモキー ノ	
ora, san=an ka somo ki no	それからは浜には行かないで
アナナー ペネ ア コロカ	
an=an pe ne a korka	暮らしていたのであったが
サナン ルスイー ヒ クス	
san=an rusuy hi kusu	浜へ行きたくなかったため
サン、ヤイエトコイキアナー ワ	
(san) yayetokoyki=an wa	私は身支度して
ウサー アエプ、ピ	
usa aep (pi)	いろいろな食べ物を、
ピシタ アンクルー エウン	
pis ta an kur eun	浜で暮らしている人のところへ
アラパ アンー クス ネ クス	
arpa=an kusu ne kusu	行くのであるから
オラーノ キムナー カ、イペ??	
orano kim un ka, ipe?? ⁽¹²⁾	それから山でとれた食べ物を
エ、ネ イシカルン ニシパ	
(e) ne Iskar ⁽¹³⁾ un nispa	イシカリの旦那さん
カシ アオセ クス ウサ、オワー	
kasi a=ose kusu usa (owa??)	への土産にするため、いろいろ
カム ピリカー ヒ アサッサトウ ネヤー	
kam pirka hi a=satsatu neya	肉のよいところを乾かすとか
ネン ネンノ アカル ヒネ オラー	
nen nen no?? a=kar hine ora	いろいろしてから
ポロー シケ ネ アカラ ヒネ オラー	
poro sike ne a=kar hine ora	大きな荷物を作って

(11) オハシロッパ ohasiroppa 【自動詞】「家を留守にする」。上田氏がゆっくり発音した場合は、オハシリホッパ ohasirhoppa となる（音声資料 CC000345）。

(12) 聞き取りにくい発音なので確認に行ったが、結局、正しい語形はわからなかった。再演でこの部分はキムンチコイキッ kim un cikoykip と言っている（音声資料 CC000345）。

(13) ピシカルンのようにも聞こえる。

サナンー、オラ サナン、ウーン

san=an, ora san=an (un)

私は浜の方へ下りて行った。

ホントモ タ ア、ア、トシ、トシカ カ タ

hontomo ta (a, a, tos) toska ka ta

その途中の川の土手の上に

ポロー チキサニー チクニー

poro cikisani cikuni,

大きなハルニレの木が

シ ポロ チキサニ カッケマツ

si poro cikisani katkemat

とても大きなハルニレの婦人が⁽¹⁴⁾

アンー ペネ ワ オロター

an pe ne wa oro ta

立っているのです、そこで

シニアン コロ サナーン

sini=an kor san=an

私は休んで下がった。

ネー チキサニ サム タ

ne cikisani sam ta

そのハルニレのそばで

シニアン ネヤー ア、アエフ

sini=an neya (a) aep

休んだり、食べ物を

アチャラパ ネヤー キー オロタ

a=carpa neya ki⁽¹⁵⁾ oro ta

撒き散らしたりしていたところで

イペアーン カ キ コロ オ、

ipe=an ka ki kor (o)

私は食事をしながら

オマナナン ペネ アクス

omanan=an⁽¹⁶⁾ pe ne akusu

行き来していたので

スイ サナーン オッタ ネー チキサニー

suy san=an or ta ne cikisani

また私が下りたところで、そのハルニレ

カッケマツ サマ タ シニアン ワ

katkemat sama ta sini=an wa

の婦人のそばで私は休んで

イペアン ペ シンナ アカ、

ipe=an pe sinna (a=ka,)

私の食べ物とは別に

アカラ カネ ヒネ アセ ヒネー

a=kar kane hine a=se hine

作って背負って

サナン ルウェ ネ ヒネ オラ

san=an ruwe ne hine ora

下りて来たので

(14) 上田氏はチキサニの木を女性として認識している。

(15) 助動詞キ ki に第1人称接辞を付けていたのを佐藤知己氏に指摘されて修正した。

(16) モニターAに指摘されて人称接辞を表す「=」を付けた。

ネ、エ、チキ、ネー シトゥ カ タ
 (ne, e, ciki⁽¹⁷⁾) ne situ ka ta⁽¹⁸⁾ その土手の上に
 アン チキサニ サム タ シニアン コロ オー、
 an cikisani sam ta sini=an kor (o) いるハルニレのそばで休みながら
 ホシキ ネー アエフ アサンケ ネ ヒネ
 hoski ne aep a=sanke (ne) hine 先にその食べ物を出して
 イチャラパ アン カ キー
 icarpa⁽¹⁹⁾ =an ka ki それを撒いて
 イペアーン カ キ ヒネ オラー
 ipe=an ka ki hine ora 自分も食事してから
 ペトルン インカラ アン ヒーネ
 pet or un inkar=an hine 川の方を眺めて
 アナーン ルウェネ アクス オロター、ア
 an=an ruwe ne akusu oro ta (a) いると、そこに
 オビシネ エ、ポロー チチラー サン オラ
 opisne (e) poro cicira san⁽²⁰⁾ ora 浜の方から大きなドジョウが来て
 オキムネー ポロー キリキリ チェッポ サン ヒネ
 okimne poro kirkir ceppo san hine 山の方から大きなキリキリチェッポが来て
 オロタ ペトッター ウコー、オー、シ、シニパへ
 oro ta pet or ta ukosinipa he, その川の中で一緒に休んでいるのか、
 エ、ウサ ウサ、ア、ウコイサク、ウコイタク ヘ
 (e) usa usa (a, ukoysak) ukoytak he いろいろ話し合っているのか、
 ヘマンター キパ ハウェー エネ アニー イ、
 hemanta kipa hawe ene an hi (i) 何かしている声が聞こえた。
 チチラー キリキリ チェッポー、オ、
 cicira kirkir ceppo (o) ドジョウがキリキリチェッポ

(17) チキサニ cikisani と言いかけてしまったらしい。

(18) 上田氏に「シトゥ カ タ situ ka ta の表現でいいのか」と質問すると、「トシカ カ タ toska ka ta」の言い誤りであると返答された（音声資料 CC000345）。

(19) 再演ではチキサニ（ハルニレ）の木の場合以外に川の中へも食物を撒いている表現がある。ここで撒いている食べ物は自分が食べる分とは別に持って来たものである（音声資料 CC000345）。

(20) 上田氏に「チチラ cicira（ドジョウ）が川を遡ることをサン san と言っているのか」と質問すると、エッ ek かヘメス hemesu で表現した方がいいと返答された。再演した際は、この部分をエッ ek と表現している（音声資料 CC000345）。

コウエペケンヌ ハウエ エネ アニ	
kowepekennu ⁽²¹⁾ hawe ene an hi	にこう言った。
エ、キムタ ネヅ カ アエラナッペ ヘネ	
“(e) kim ta nep ka a=eranak pe hene	「山で何か困ったことや
アエラマスヅ ヘネ イサム ヤー セコロ	
a=erasasu p hene isam ya” sekor	良かったことはなかったか？」と
チチラー ウウエペケンヌー ルウエ ネ アクス、ウ、	
cicira uwepekennu ruwe ne akusu (u)	ドジョウが訊ねると
キリキリ チェッポー エネ ハウエ アニ	
kirkir ceppo ene hawe an hi	キリキリチェッポがこう言った。
イ、ネヅ カ キム タ アナクネ ア、	
“(i) nep ka kim ta anakne (a)	「山では何も
アエラナッペ カ イサム アエラマスヅ カ	
a=eranak pe ka isam a=erasasu p ka	心配事もないし、良い話も
イサム ルウエネワー セコロ ハウエアン オラー	
isam ruwe ne wa” sekor hawean ora	ないですよ」と言ってから
キリキリ チェッポ チチラ コウエペケンヌ	
kirkir ceppo cicira kowepekennu	キリキリチェッポがドジョウに訊ねた。
ネヅ カ ピシ タ アエラナッペ ヘネ	
“nep ka pis ta a=eranak pe hene	「浜でなにか困ったことや
アエラマスヅ ヘネ イサム ヤー セコル	
a=erasasu p hene isam ya” sekor	良いことはなかったか？」と
コウエペケンヌ ルウエ ネ アクス	
kowepekennu ruwe ne akusu	訊ねると
ネヅ カ ア、アエラナッペ カ	
“nep ka (a) a=eranak pe ka	「何も困ったことも
アエラマスヅ カ イサム コルカ	
a=erasasu p ka isam korka	良いこともないけれども
パテーク ア、アエラナッ ペネ	
patek (a) a=eranak pe ne	ただ一つ心配なことが

(21) モニターAからこの語形について「佐藤2002に言及すべき」と指摘された。筆者は『田村』の kowepekennu の単語で「☆参考」に記述されている「接頭辞が付かない場合は kowepekennu コウエペケンヌという形をとる」を参考にして表記した。

アン ルウエ、ペ アナクネ

an ruwe, pe anakne⁽²²⁾

あるのは

エネアニ、エネ アン ヒ、イー

ene an hi, ene an hi (i)

こういうことなのです。

イシカラ プトゥフ ウン、コロ、ニシパ

Iskar putuhu un (kor)⁽²³⁾ nispa

イシカリ河口に住む旦那さん

ウムレク、コタン コン ニシパ ネワ

umurek, kotan kor nispa ne wa

夫婦が村長になって

オカー ルウエ ネ コルカ

oka ruwe ne korka

暮らしているけれども

ウコボサツパツ ネクス オラー

ukoposakpa p ne kusu ora

子供がいないので

シネー チャペ レ、レスーパ ヒネ オラーノ

sine cape (re) resupa hine orano

一匹のネコを育てて

ネー チャペ ポネ コロパ ワ エク ワ

ne cape po ne⁽²⁴⁾ korpa wa ek wa

そのネコを子供のようにして

エ チョクヌレ コロー オカイペネアツ

ecoknure⁽²⁵⁾ kor okaype ne a p

かわいがっていたのですが

ネー チャペー エネー ヤイヌ ヒ、ヒ、イ、

ne cape ene yaynu hi (hi, hi, hi)

そのネコが考えていることは

タスクランネ⁽²⁶⁾ ネ チセコロクル

tanukuranne ne cise kor kur

今晚、その家の主人を

アライケー ワ オラー ライ オカ タ

(a=)rayke wa ora ray oka ta

殺して、死んだ後に

ネー チセコロクル コロ カッケマツ

ne cise kor kur kor katkemat

その主人の奥さんを

(22) 再演ではボンノ アエラナツペ アン ヒ アナクネ ponno a=eranak pe an hi anakne と書いた(音声資料 CC 000345)。

(23) ここ以外にイシカラ プトゥフ コロ ニシパ isikar putuhu kor nispa という表現は現れない。本編の他の箇所や再演ではイシカラ プトゥフ ウン ニシパ iskar putuhu un nispa とあるので、コロ kor を言い間違いと筆者は判断した。

(24) ポニに近く聞こえる。

(25) 『田村』や『萱野』に「エチョクヌレ ecopnure」とあるが、上田氏は『中川』の千歳方言と同じ語形エチョクヌレ ecoknure で発音する。後で上田氏に解説してもらくと、接吻する対象が孫だけでなく恋人同士の接吻の場合にも用いることができる。その際にウウエチョクヌレアン uwecoknure=an 「私たちは接吻しあう」という用例を話された(音声資料 CC000345)。

(26) タスクランニに近く聞こえるので、上田氏に発音と意味を確認するとタスクランネ「今晚」とはっきり言われた(音声資料 CC000345)のでそのようにカタカナ表記した。

マッ ネ コロ クニ ラム ワ	
mat ne kor kuni ramu wa	妻にしようと思って
タヌクランネ ⁽²⁷⁾ ネ コタン コン ニシパ	
tanukuranne ne kotan kor nispa	今晚、その村長を
ライケー クニ ネ チャペ ラム コロ	
rayke kuni ne cape ramu kor	殺そうとネコがたくらんで
アン シリー アヌカラ ワ パテーク	
an siri a=nukar wa patek	いる様子を見て、そのことだけを
アエシルキラ、ア、アエシルキラフ ヘ	
(a=esirki, a) a=esirkirap he	私が心配したり
アオクンネレ ヘ キ コロー	
a=okunnure he ki kor	驚いたりして
アナン ルウェ ネ コロカ	
an=an ruwe ne korka	いたけれども
イシカラ エトコホ ウン ニシパ サン ワ	
Iskar etokoho un nispa, san wa,	イシカリの奥に住む旦那さんが来て
タ シニ コロ オ、ネ、コ、プ、	
ta sini kor, (o, ne, ko, pu)	ここで休んで
イシカラ ウン ニシパ コシネウエ クス	
Iskar un nispa kosinewe kusu	イシカリの旦那さんのところへ遊びに
サン ワ タヌクラン ネ サン クス (ネ)	
san wa tanukuranne, san kusu (ne)	今晚、浜へ行く
ネ クス オロタ ネウン カ	
ne kusu oro ta neun ka	ので、そこでなんとか
ネ チャペ エ、カラ ヘネ	
ne cape (e) kar hene	そのネコにするなり
ライケ ヘネ キー ソモ キ ヤク アナクネ	
rayke hene (ki) somo ki yak anakne	殺すなりしなかったならば
コタン コン ニシパ タヌクラン	
kotan kor nispa tanukuran	村長が今晚
アライケー ノイネ ネ ヒ パテーク	
a=rayke noyne ne hi patek	殺されるであろうことを
アエラナッペ ネ アン ルウェ ネ ワー	
a=eranak pe ne an ruwe ne wa”	私は心配しているのですよ」

(27) タヌクランニに近く聞こえる。

セコル チチラ ハウエアン ハウエ ア、

sekor cicira hawean hawe (a)

アヌ ワ オラ エアラキンーネ

a=nu wa ora earkinne

ア オクヌヌレ エ、タヌ克蘭ネー⁽²⁸⁾

a=okunnure (e) tanukuranne

アコシネウエ クス サナン

a=kosinewe kusu san=an

ニシパ オロタ オルシペヘ

nispa oro ta oruspehe

エネー チェブ コロ カムイ

ene (cep kor kamuy)⁽²⁹⁾,

ポン チェッポ カムイ ウタラ

pon ceppo kamuy utar

ウコイタッ ハウエアン セコル アーヌ ヒ

ukoytak hawean sekor a=nu hi

ア エキマテキ オラー ナ トゥナシノ

a=ekimatek hi ora na tunasno

サナン ルスイ ヒ クス オロ タ

san=an rusuy hi kusu oro ta

オンカミ アーン カ キー ヒネ オラー

onkami=an ka ki hine ora

アコル アエッ カ イヤイライケ アン ヒ

a=kor aep ka iyairayke=an hi

オハイン アン ヒ アイエー コロー

ohainu=an hi a=ye kor

イチャラパ アン カ キ オラー

icarpa=an ka ki ora

ネー カムイー カー マッネ ワ ネヤ

ne kamuy ka mak ne wa ne ya⁽³⁰⁾

とドジョウが話した声を

聞いて、とても

私は驚いた。今晚

私が遊ぶために行く

旦那さんのところの話を

こうして

小魚の神様たちが

会話する声を聞いたことに

私は驚いて、すぐに

下りて行きたくなり、そこで

礼拝をして

私の食べ物を感謝していることや

空聞きできたことを言いながら

撒いて

その神様にもどうなるやら

(28) タヌ克蘭ニに近く聞こえる。

(29) モニターBから、「cep kor kamuy と ceppo kamuy は、このままでは同じものを意味しているとはいえないだろうから、前者を言い直したのが後者だとは考えられないか」という指摘があり、筆者もそのとおりに思うので cep kor kamuy を () で括り、その部分の日本語訳を付けなかった。

(30) モニターAの指摘により、mak ne wa naya という誤記を訂正した。

ア エラミンカリ コルカ	
a=eramiskari korka	わからないけれども
カムイー イエブンキネー クニー カ	
kamuy i=epunkine kuni ka	神様に私を守ってくれるように
イノンノ イタクアン ヒネ	
inonnoitak=an hine	祈りを捧げて
チキサニ カムイ カ	
cikisani kamuy ka	ハルニレの神様
アコノン、イ、ネ ヤッカ、アー、	
(a=konon, i) ne yakka (a)	にも
イカオピウキ クニ アイェ コロ オラー	
ikaopiwiki kuni a=ye kor ora	助けてくれるように言うてから
サナン ヒネ オラ サナン ホントム タ	
san=an hine ora san=an hontom ta	私は下りて、その途中で
クワー アカラ ヒネ ネ シー クワ、ア、クワ	
kuwa a=kar hine ne si kuwa ⁽³¹⁾ , (a) kuwa	丈夫な杖を
アカラ ヒネ ア エテテー カネー キ コロ	
a=kar hine a=etete kane ki kor	作り、それをつきながら
サナン ルウェ ネ ヒネ	
san=an ruwe ne hine	下がって
ネー コタン オッタ サナンー	
ne kotan or ta san=an	その村にやって来た。
イネ ヘンパッ パ カ	
ine hompok pa ka	何年も
サナン カ ソモキ ア コロカ	
san=an ka somo ki a korka	来なかったけれども
シラム キラン ペ ネ クス ソネ	
siramkir=an pe ne kusu sone ⁽³²⁾ ?	道を知っていたので
ネー チセ ソイタ アラパアンー ヒネ オラ	
ne cise soy ta arpa=an hine ora	その家の前に行って
シリキッキク アン ルウェ ネ アクス	
sirkikkik=an ruwe ne akusu	ノックをすると

(31) 再演した際は、このシークワ si kuwa をトマシノ クワ tumasno kuwa と表現した。意味は「丈夫な杖」という。物だけでなく、強く丈夫な人間や動物に対して用いることができる（音声資料 CC000345）。

(32) 副詞のソネ sone 「本当に」ではなく、言いよどみの可能性もあるが不詳。

ネーア チセ コロー コタン コン ニシパ

nea cise kor kotan kor nispa

あの村長

コロ カッケマツ ソイネ ヒネ

kor katkemat soyne hine

の奥さんが外に出て来て

イヌカラー ヒネ オラー ア、

i=nukar hine ora (a)

私を見ると

スイ アフン ヒネ エー、

suy ahun hine (e)

再び(家に)入って

イシカラ エトコ ウナー ニシパ、アー、

“Iskar etoko un nispa (a)

「イシカリの奥に住んでる旦那さんが

エ、エキネ ソイタ アン ルウェネー セコロ

(e) ek hine soy ta an ruwe ne” sekor

外に来ていますよ」と

ハウエアン ハウエアサクス オラ、アー、

hawean hawe as akusu ora, (a)

言う声がすると

チセコン ニシパ ホクレ ホクレ

cise kor nispa “hokure hokure

主人が「さあさあ、

アフンケ アフンケ セコロ

ahunke ahunke” sekor

入れろ入れろ」⁽³³⁾と

ハウエアン ハウエ アサクス オラ ア、

hawean hawe as akusu ora (a)

いう声がして

ソ ア ムンヌパ ヒネ オラー

so (a) munnupa hine ora

床を掃いてから

イアフンケー クス イェー ヒネ

i=ahunke kusu ye hine

私を招くために言って

ヒ クス オラー アフナナー

hi kusu ora ahun=an

くれたので私は(家に)入った。

オリパクアン コロ アフナナー

oripak=an kor ahun=an

かしこまりながら入って

ルウェ ネ ヒネ オラ、ア

ruwe ne hine ora (a)

行って

アベ エトク タ アアン オラ

ape etok ta a=an ora⁽³⁴⁾

横座に私が座って

(33) 当初「入れ、入れ」と訳していたが、モニターBの指摘により「入れろ入れろ」に訂正した。

(34) モニターAの教示により聞きなおして「アアノ オラ」の聞き誤りを訂正した。

ネ チセコンニシパ エアラキンーネ	
ne cise kor nispa earkinne	その家の旦那さんがとても
イエー、イエ、ランポキウエン ⁽³⁵⁾ へ	
(ie,) i=erampokiwen he	私を気の毒に思ったのか
イエヤイコブンテッ シネウエ アンーヒ	
(i=eyaykopuntek) sinewe=an hi	訪問したことを
イエヤン、コブンテッ コロ	
i=eyaykopuntek kor	喜んで
イコオンカミ ア イコオンカミー ア	
i=koonkami a i=koonkami a	何度も私に拝礼した。
オトッスイ イレスイ ウコオンカミアン コロー	
otusuy iresuy ukoonkami ⁽³⁶⁾ =an kor	二度も三度もお互いに拝礼
オカアン コロ イ、インカラン ルウェネアクス	
oka=an kor (i) inkar=an ruwe ne akusu	して、見ると
ソンノカ アー、ネー チセー ソウスツ タ	
sonno ka (a) ne cise sowsut ta	本当に家の隅に
チャペ ポロー チャペ ホッケ ワ	
cape, poro cape hotke wa	大きなネコが横になって
アン シリキ シウコ カラカリ ワ	
an sirki ⁽³⁷⁾ siukokarkari wa	いた。それが身を丸めて
ホッケ ワ アン シリー	
hotke wa an siri	横になっている様子を
アヌカラ コーロ アナーン ワ	
a=nukar kor an=an wa	見ながら
ネ チャペ オルシペ ア ケウトゥム オッタ	
ne cape oruspe a=kewtumu ⁽³⁸⁾ or ta	そのネコのことを自分の心中に
アコル コロ アナーン ワ オラーノ	
a=kor kor an=an wa orano	持ちながら

(35) モニターBから「イエランポキウエン…の行は「eyaykopuntek」の言い間違いということは考えられないか」と指摘された箇所であるが、沙流川や鶴川の流域に在住する大正生まれの人は遠くからの来訪者をねぎらって「気の毒によく来たね」と日本語でよく表現されることなので、筆者はここを言い誤りではないと判断した。

(36) ウコオンカミ ukoonkami「お互いに拝礼する」のほか、このときの様子を上田氏はウタサオンカミ utasaonkami「互いに交替で拝礼する」と表現した（音声資料 CC000345）。

(37) モニターBの教示により聞き直し、シリキ siriki からシリキ siriki へ訂正した。

(38) モニターA Bからケウトゥムの語尾に母音が付いていると指摘されて聞きなおしたところ、そのとおりなので訂正した。

ネー チセ コロー ニシパ

ne cise kor nispa

その家の旦那さん

トゥラノ オ、ウウエネウサラン

turano, (o) uwenewsar=an

と一緒によもやま話を語り合った。

ナニ ネン エ、ウウエネウサラン

nani nen (e) uwenewsar=an

すぐにいろいろと世間話をした。

ヤフ、ヤイカタ アナクネ

(yahu) yaykata anakne

自分は

キム タ アナン ペ ネ クス

kim ta an=an pe ne kusu

山で暮らしているの

キムン オルシペ アイェ オラー

kim un oruspe a=ye ora

山のことを話して

ピシ タ アン、イシカラ プトゥフ ウン

pis ta an, Iskar putu un

浜で暮らしているイシカリ河口の

ニシパ アナクネ、

nispa anakne

旦那さんは

エー、はてな?キム、キムン、

(e, HATENA, kim, kim un,

…⁽³⁹⁾

なんだべ…、キムン オルン…、ア、

NANDABE…、kim un or un a

…

アトゥイー、イー、オルシペ アトゥイ カ タ

atuy i oruspe) atuy ka ta

海の上で

ウサー ラウケトッパ オルシペ ネヤー

usa rawketupa⁽⁴⁰⁾ oruspe neya

いろいろ仕事をした話やら

キー オラー コロ オカ アン アイネ オラー

ki ora kor oka=an ayne ora

さんざんした後で

アク、アコロ ワー カシ アオセ ア、アエフ、アエフ

(ak) a=kor wa kasi a=ose (a aep,) aep

私が背負って来た土産の食べ物の

(39) 言い誤りなので対訳しない。

(40) ラウケトッパ rawketupa 【自動詞】「仕事をする」。2001年11月30日、この言葉について上田氏は次のことを話された。「ラウケトッパ rawketupa っていうのは、クマもそれこそ、仕事に歩いてるんだべし、人間も仕事に歩いてるんだから、ウタシパ ラウケトッパ クス アッ utaspa rawketupa kusu ap (文末のアッはモニターBから「アッカシ」の可能性を指摘されているが不詳) っていうの、その仕事に歩いているっていう言葉がラウケトッパ rawketupa」「クネッキ クス カラパ クス ネ ナ ku=nepki kusu k=arpa kusu ne na でもいいし、クラウケトッパ クス カラパ クス ネ ナー ku=rawketupa kusu k=arpa kusu ne na でもいい。どっちでもいいよ」(音声資料 CC001187)。

ウサ キムーン、カムイー ハルー ネヤー	
usa kimun, kamuy haru neya	クマ肉とかを
チ、フー カム ネヤー チー カム ネヤー	
(ci) hu kam neya ci kam neya	生の肉やら煮た肉やら
カムイ ハル カシ アオシケ ワ	
kamuy haru kasi a=osike wa	クマ肉を私が背負って
サナンペ ネ クス エアラキンーネ	
san=an pe ne kusu earkinne	来たものだから、とても
エ ヤイコブンテッ オラー	
eyaykopuntek ora	喜んで
ネア チセコロ カッケマツ ピリーカ スケ	
nea cise kor katkemat pirka suke	その奥さんが美味しい食事を作った。
アトゥイー カ タ オカ ウタラ ネ クス	
atuy ka ta oka utar ne kusu	海にいる人たちなので
アトゥイー ラマンテ ウサ ピリカ アエ、アエツ	
atuy ramante usa pirka (ae) aep	海で獲ったいろいろな美味しい食べ物を
ウコ スウォロタタ ワ スパ ワ	
ukosuortata ⁽⁴¹⁾ wa supa wa	鍋と一緒に切りこんで煮て
イエレー、イエレ ヘ イコイプニ コロ	
(i=ere) i=ere he?? i=koypuni kor	私の分をよそって
オカアン コロカ ア、ヤ、ヤヤ、ヤヤツテアン ヘー	
oka=an korka (a, ya, yaya) yayapte=an he	いたけれども、私は軽々しくせずに
シルワンテ アン ヘー、キ コロ アナンー オラ	
siruwante=an he ki kor an=an ora	様子を見たりしていた。
ネー チャペ エ オイベピヒ ネ ヤッカ	
ne cape (e) ⁽⁴²⁾ oypepihi ne yakka	そのネコの食器も
アペケシトゥッタ ア、ピリーカ チャペ オイペピー カ	
apekestur ta (a) pirka cape oypepi ⁽⁴³⁾ ka	木尻座にネコのきれいな食器が
アン シリー カ アヌカラ コロ	
an siri ka a=nukar kor	あるのを私は見て

(41) モニターAからは文法的に「ウコスオロタタ」とすべきことを指摘されているが、筆者はなお検討中である。

(42) モニターBから、「エオイベピ」でも間違いではないと思うが、という指摘があったが、この物語中で「ネコの食器」を他の3箇所で「チャペ オイベピ(ヒ) cape oypepi(hi)」という語形で表現しているのでこのeは()で括った。

(43) 上田氏は解説の中で、チャペ オイベピ cape oypepi を「えさわん(餌碗)」と称した(音声資料 CC000346)。

アナン ルウェ ネアツ	
an=an ruwe ne a p	いたのであった。
ネア カッケマツ アー、ピリーカ イタンキ アニ	
nea katkemat (a) pirka itanki ani	奥さんが美しいお椀で
イコイプニ コルカー	
i=koypuni korka,	私によそってくれたけれども
ヒ オラ チセコロクル ネ ヤッカ	
hi ora cise kor kur ne yakka	それから主人にも
コイプニ コルカ チセコロクル カー	
koypuni korka cise kor kur ka	よそったけれども主人も
ネー アコイプニツ エーカ ソモキノ アン	
ne a=koypuni p e ka somo ki no an	配膳されたものを食べないでいた ⁽⁴⁴⁾ 。
ヤイカタ カ ア エー カ ソモキノ	
yaykata ka a=e ka somo ki no	自分も食べないで
イヌンベ カ タ ア、アコロ イタンキ カ	
inunpe ka ta (a) a=kor itanki ka	炉縁の上にお椀を
ア アシ ヒネ アナン ルウェネアツ	
a=asi hine an=an ruwe ne a p	置いていたのだが ⁽⁴⁵⁾
ラポッケ オラー ネア チャペ ホプニ ヒネ	
rapokke ora nea cape hopuni hine	そのとき例のネコが起き上がって
エキーネ オラー ネア チセコロー クル、ウ	
(ek hine ora nea cise kor kur (u)	(来て、主人が
ア、アコイプニ ワ アン ア、アアア、	
a a=koypuni wa an a, aaa,)	配膳されていた…)
イヌンベ トウラシ ヒーネ エキネ	
inunpe turasi hine ek hine	炉縁に沿って来て、
イヌンベ カ タ ネア イタンキー、ア、	
inunpe ka ta nea itanki (a)	炉縁の上のお椀を
ネ チセコロクル アシ ワ アナンペ	
ne cise kor kur asi wa anan?? pe	主人が置いていたが

(44) 上田氏に食事を始めない理由を質問すると、はっきりした理由はわからないが、主人公が食べないでいるのは、ネコを監視しているためかもしれないと推測している。

(45) 上田氏によると、「昔はイヌンペ inunpe 「炉縁」をお膳のようにしてお椀を置いて食事した」という（音声資料 CC000346）。

ネアー イタンキー カマ コロー、オー、 nea itanki kama kor (o)	そのお椀をまたいで
サラハー ネア イタンキ イー、 saraha nea ⁽⁴⁶⁾ itanki (i)	尾っぽがそのお椀を
エポイエポイエー ペコロ イキー コロ オ、 epoyepoye ⁽⁴⁷⁾ pekor iki kor (o)	混ぜるようにしながら
シ、シ、シ、シッケウエ、ウ、クース ヒネ (si si si) sikkewe (u) kus hine	家の隅を通過 ⁽⁴⁸⁾
エ、エシルイネ アラパ ア、シリー オサ (e) esiruyne arpa (a) siri osa ⁽⁴⁹⁾ ??	奥の方へ行った様子を
アヌカラ ヒ クス オラー a=nukar hi kusu ora	私は見たので
ナニー ネア ア、チセコロクル、ウー、コロ nani nea, (a) cise kor kur (u) kor	すぐにその主人の
イタンキー カマ カマ コロ サラハ itanki kama kama kor saraha	お椀をまたぎながら尻尾が
イタンキー エポイエポイエ シリ itanki epoyepoye siri	お椀を混ぜた様子を
アヌカラ ペ ネ アクス オラ ナニー a=nukar pe ne akusu ora nani	見たので、すぐに
アウツテク ヒネ ネー チャペ オイベピヒ a=uk tek ⁽⁵⁰⁾ hine ne cape oyepihi	それを取ってネコの食器に
アオタ ヒネ アナーン コルカ a=ota hine an=an korka	私がそそいだのであるが
ネア チセコロ カ ネフ カ ソモ イエ nea cisekor ka nep ka somo ye	家のあるじはなにも言わなかった。
オラー ヤイカタ カ イペ アン カ ora yaykata ka ipe=an ka	自分も食事を

(46) モニターBから指摘され、neya を nea と直し、その言葉に合わせて訳を訂正した。

(47) 上田氏は、「したから、毒が尻尾についていたのが、あの一、お椀さこう、振り混ぜたって、掻き混ぜたっていうことはエポイエポイエだよ」という。ネコが何の毒をどこでつけて来たのかはわからないという（音声資料 CC000344）。また、同じ意味でエポイバポイバ epoypapoypa とも表現できるという（音声資料 CC000345）。

(48) モニターBから教示されて意味を付けることができた。

(49) モニターAから「オサ osa??」と聞こえる箇所は次の行にかかって、オシ アヌカラ os a=nukar 「～の後から私は見た」の可能性があると教示を受けたが、よくわからない。

(50) モニターBの教示を受けて、この物語中に出現する助動詞テク tek を前の言葉から離して記した。

ソモキノ アナン ルウェ ネアヲ

somo ki no an=an ruwe ne a p

ラポッケ ネア チャペ エキーネー

rapokke nea cape ek hine

ネー チャペ オイペピヒ ア オタハー、ア、アエヲ

ne cape oyepihi a=ota (ha a) aep,

エ コル アン ピッカ アエヲ ネ クス ウ、

e kor an, pirka aep ne kusu (u)

エ コロ アン シリ アヌカラ オラ

e kor an siri a=nukar ora

イヨクンヌレ アン コロ アナン ラポッケ

iyokunnure=an kor an=an rapokke

ネア チャペ エー オケレテッ アクス オラー

nea cape (e) okere tek akusu ora

オロタ ライ ホチカチカ シ、コロ

oro ta ray hocikacika (si) kor

アン ヒ クス ナニ ネア オ、

an hi kusu nani nea (o)

アコロ クワー アパ ハルキソ オッタ

a=kor kuwa apaharkiso or ta

アアシ ヒネ アナン ペネアヲ

a=asi hine an=an pe ne a p

アコル クワ ア ウッテッ ヒネ

a=kor kuwa a=uk tek hine

ネア チャペ ア トイコキクキク

nea cape a=toykokikkik

ルウェ ネ アクス

ruwe ne akusu

ネア チセコロ カッケマツ ヘ

nea cise kor katkemat he

ライ パラバラク コロ エネ

raypararak kor "ene

アオマヲ コロ パテッ ポ ネ

a=omap kor patek po ne

せずにいたものであったが

その間にあのネコが来て

ネコの食器に私がそそいだ食べ物を

食べていた。美味しい食べ物なので

食べている様子を見て

たまげていたところ、

そのネコが食べ終わると

そこでひどくバタバタと暴れて

いたので、すぐ例の

私の杖は南側の戸口のところに

立てかけていたのであるが、

私の杖をさっと取って

そのネコを私はめった打ちに

すると

その家の奥さんが

激しく泣き叫びながら「こうして

可愛がって、これだけの子供として

アコロ ワ アオマツ コロ

a=kor wa a=omap kor

飼って可愛がって

アナン チャペ ネアツ

an=an cape ne a p

いたネコであったのに

マク ネ ヘネ エネ、エー

mak ne hene ene (e)

どうしてこんな

アヤイウエンヌカリ シリ アン セコル

a=yaywennukar siri an" sekor

ひどいことをするのか」と

ハウエアン コン ライ パラパラッ ヒ クス

hawean kor rayparaaparak hi kusu

言いながら泣くので

ネア カッケマツ カ アコパシロタ、

nea katkemat ka a=kopasrota,

その奥さんを私は叱りつけ

コル ネ コルカ ネア チャペ

kor ne korka nea cape

ながらネコを

アカ、ア トイコキッキッ ヒネ

(aka,) a=toykokikkik hine

めった打ちにして

アライケ ヒネ オラー

a=rayke hine ora

殺して

エ ソイネ アコロ ワ アラパアン、ネ アバパ、

esoyne a=kor wa arpa=an ne (apapa,)

それを外へ持って行き

アパ ポッ タ ヘ ムンカウン

apa pok ta he mun ka un

戸口だか、ゴミの上に

ア オスラテッ ヒネ オラー アフナン ヒネ

a=osura tak hine ora ahun=an hine

捨ててから家に入って

ネア メノコー アーコパシロタ コロ、オ、コロ

nea menko a=kopasrota kor (o, kor)

その女を叱りながら

エネ ハウエアナ ナニ

ene hawean=an a hi??

次のように言った。

タヌ克蘭ニー チセ コロ ニシパ

"tanukuranne cise kor nispa

「今晚、家の旦那さんが

アライケ チャペー オロワ アライケ ワ オラー

a=rayke cape or wa a=rayke wa ora

私が殺したネコに殺されて

ニシパ ライ ヤクン オカケ タ

nispa ray yakun okake ta

旦那さんが死んだらその後で

ネー チセ コロ メノコ

ne cise kor menoko

チャペ ホクフ コロー クニー、イ

cape hokuhu kor kunihi (i)

オハイン アン ワクス イキアニネ

ohainu=⁽⁵³⁾an wakusu iki=⁽⁵³⁾an hine

ネア チャペ ケムヌ シリ ネ ヤクン

nea cape kemnu siri ne yakun

テワノ チャペ ホク ヘネ コロ ヤク

tewano cape hoku hene kor yak

ピリカ セコル アイエ コル ネア メノコ

pirka” sekor a=ye kor nea menoko

アーコパシロタ ルウェ ネ アクス

a=kopasrota ruwe ne akusu

オラー エアシリー、イ、ヤイー、ヤイケウエホムス ヘ

ora easir (i, yay) yaykewe homsu ⁽⁵⁶⁾he

ネー チセコン ニシパ ネ ヤッカ

ne cise kor nispa ne yakka

エエ、ヤイ ケウエホムス

(ee) yaykewe homusu

アコンニシパ アン クス ケライボ

“a=kon nispa an kusu keraypo

シクヌ アンー ヒ ネ アン ヒ

siknu=⁽⁵⁷⁾an hine an hi

ネ、ネウン ネ ヤッカ アエラミシカリノ

(ne) neun ne yakka a=eramiskari ⁽⁵⁷⁾no

オカアン ルウェ ネアア

oka=⁽⁵⁷⁾an ruwe ne a p

奥さんが

ネコの夫を持つ⁽⁵²⁾であろうことを

空聞きしたので行動したのである。

そのネコをあわれむのなら

今からネコの夫でも持って⁽⁵⁴⁾みたら

いい」と私が言いながら、その女を

叱りつけると⁽⁵⁵⁾

はじめて自分が助けられてほっとしたり

旦那さんも

危ないところを助けられてほっとした。

「旦那さんがいたおかげで

私は死なずにすんだ。

どうあっても私は知らずに

いたのですが

(52) モニターBの指摘で「ネコを夫に持つ」から「ネコの夫を持つ」に訂正した。

(53) オハイン ohainu 【自動詞】「空聞きをする」。2004年11月13日と12月18日に上田氏は「オハインヌやオハインカは、神や化物が特定の人間に幻聴を聞かせる。大勢の人がいても一人にしか聞こえないものだと言った」という主旨を話された。

(54) モニターBの指摘で「ネコを夫でもして」から「ネコの夫でも持って」に訂正した。

(55) モニターBの指摘で「言うと、女は叱りつけられて」から「言いながら、その女をしっかりと」に訂正した。

(56) モニターBの指摘でローマ字とカタカナの誤記を訂正した。

(57) モニターBの指摘でローマ字の誤記を訂正した。

エネー チャペ、エー、アコロ イタンキ	
ene cape (e) a=kor itanki	あのようにネコが私のお腕を
カマー シリ アスカラ コルカ	
kama siri a=nukar korka	またいだのを見たけれども
ネ、ネン アラムー カ ソモキノ	
(ne,) nen a=ramu ka somo ki no	なんとも思わないで
アナソ ルウェ ネアツ	
an=an ruwe ne a p	いたのですが
アコンニシパ、アー、アン クス ケライボ	
a=kon nispa (a) an kusu keraypo	旦那さんのおかげで
シクヌ アン ルウェ ネ アン ヒ セコン	
siknu=an ruwe ne an hi” sekor	私は命拾いした」と
ネ ヒ ネ オラノ イコヤイライケ ヒ	
ne hine orano i=koyayrayke hi	言って、私に感謝のことばを
イエロク イエロク パ コロ オラー イペアン	
ye rok ye rokpa kor (ora ipe=an)	重ねて言うと
オラ エアシリ イペアン カ キ ヒネ	
ora easir ipe=an ka ki hine ⁽⁵⁸⁾	そうして初めて食事をして
イペアン、オカアン ヒ オラー	
ipe=an oka an hi ora	食事した後から
ネア チャペー ア、アトイコムンヌパ ネ ヤ、	
nea cape (a) a=toykomunnupa ⁽⁵⁹⁾ ?? ne ya	例のネコを
ア、アトイコ タタ ネヤ アキ ヒネ	
(a) a=toykotata neya a=ki hine	ひどく切り刻んで
シロウリ アン、アンパ ヒネ	
sirowri=an (an) pa hine	地面に穴を掘って
オロ タ エホルカノ トイ トウム	
oro ta ehorka no toy tum	そこに逆さまにして地中に
ア オマレ ルウェ ネ ヒネ オラーノ ニョ、	
a=omare ruwe ne hine orano (nyo)	埋めてから

(58) 再演では殺したネコを切り刻んで燃やした後で食事している (音声資料 CC000346)。

(59) 意味がわからないので対訳していないが、アトイコタタ a=toykotata と対になるようなひどい仕打ちと推測する。『萱野』に「ムンヌパ munnupa はき掃除(する)」と自動詞の形で記されている。接頭辞トイコ toyko-「激しく、ひどく」は動詞のとり名詞の数を変えないのでトイコムンヌパアン toykomunnupa=an とすべきであると思われるが、ここでは他動詞の人称接辞が付いている。いい間違いなのかどうか不詳。

オカケ アン コロ オラー スイ ナ	
okake an kor ora suy na	その後でまた
ネン ネン ウウェネウサラン ネヤ	
nen nen uenewsar=an neya	いろいろなよもやま話やら
ウコヤイウエンヌカラン イエ、オルシペ ネヤ	
ukoyaywennukar=an ⁽⁶⁰⁾ (ye) oruspe neya	共に苦勞したことやら
ウ、カ、ウコーラムリテン アン	
(u, ka) ukoramuriten=an	お互いになごやかに過ごしていた
オルシペ ネ ヤ アウコ、ウコイソイタッ コロ	
oruspe ne ya a=(uko,) ukoysoytak ⁽⁶¹⁾ kor	ことなどを話し合いながら
オラーノ レウシ アン カネ トリ アン カネ	
orano rewsa=an kane tori=an kane	滞在して
アキ コル オカアンー ア コルカ	
a=ki kor oka=an a korka	いたけれども
エイタサ オハシロツパ アン ヒ カ	
eytasa ohasiroppa=an hi ka	しばらく留守にしておくのも
シ、シオカエポタラン クス	
(si) siokaepotara ⁽⁶²⁾ =an kusu	心配なので
ホシピアン クスネー アイェ アクス	
hosipi=an kusu ne a=ye akusu	帰宅することを伝えると
オラーノ ネー ニシパ イー、エアラキンーネ	
orano ne nispa (i) earkinne	旦那さんがとても
イコヤイライケ ヒ イェア イェア コロ	
i=koyairayke ⁽⁶³⁾ hi ye a ye a kor	私に感謝していることを言いながら
オラー、アー、ウサ オカイペー アシンペ、	
ora (a) usa okaype (asinpe ⁽⁶⁴⁾)	いろいろな品を
イ、ア イシクヌレ ヒ イー、アタイ ネヤ	
(i) a=i=siknure hi (i) atay ne ya	命を救われたことの値であるとか
イエ コル ウサ オカイペ サンケ ク、ワ	
ye kor usa okaype sanke (ku) wa	言いながら、いろいろなものを出して

(60) モニターBの指摘により聞きなおして人称接辞を付け加えた。

(61) ウコイソイタッアン ukoysoytak=an のいい間違いか。

(62) モニターBの指摘により聞きなおして語尾に母音を付け加えた。

(63) モニターBの教示で聞き直して koyayrayke の誤りを訂正した。

(64) モニターBの指摘でアシンペ asinpe 「償いの品」は文脈に合わないの言いよどみではないかという指摘があった。筆者もそう思うので()で括って訳を付けないことにした。

イコレ クナク イェ コルカ	
i=kore kunak ye korka	私にしてくれると言ったけれども
ア ウク カ ソモキノー オラー	
a=uk ka somo ki no ora	私は受け取らずに
エネ ハウエアナ ナ ニ、イー、	
ene hawean=an a hi (i)	このように言った。
ニシパ ウタラー エネー ニシパ ネー ワ	
“nispa utar ene nispa ne wa	「旦那さんたちがこのように長者になって
オカ ヒケ オラー オル、オルケシサクパ ヒーカ	
oka hike ora (or) orukessakpa hi ka	いても後継ぎのいないことが
ア エランポキウエンー クス ニシパ ウタラー	
a=erampokiwen kusu nispa utar	気の毒なので旦那さんたちの
ヤイヌー カトウ レンカイネ ネ、ネ	
yaynu katu renkayne (ne, ne)	思召しにより
イタカン ハウエ ヤクン ヌ ワー	
itak=an (hawe) yakun nu wa	私の話を聞いて
イコサウヌ パ ワ イコレ ヤク	
i=kosawnupa ⁽⁶⁵⁾ wa i=kore yak	腹を立てないでくれたら
ピリカ ヒ カトウ アナクネ	
pirka hi katu anakne	ありがたいことというのは
エネ アニー ヤイカタ アナクネ	
ene an hi yaykata anakne	こういうことなのです。自分は
ポ カ ポロンノ アコロ クス、ウー	
po ka poronno a=kor kusu, (u)	子供をたくさん持っているので
ニシパー オロケシサク ヒー カ	
nispa orkessak hi ka	旦那さんの後継ぎがいないことを、
ニシパ ケムヌ アン クス	
nispakemnu=an kusu	旦那さんが気の毒なので
アポー ホー シネッ アマッネポホ ⁽⁶⁶⁾ シネッ	
a=poho sinep a=matnepoho sinep	男の子1人と女の子1人を

(65) イコサウヌパをここでは i=「私に」 ko「…について」 sawnu「ゆるい」 pa「複数形をつくる接尾辞」のように筆者は解釈した。2004年12月18日に上田氏はイコサウヌ i=kosawnuを「やさしく」と対訳した。

(66) モニターBの教示により聞き直し、アマチネポと聞き誤ったのを訂正した。

アコレー ワ シカオイキレ、シパオ、オイキレ、エ	
a=kore wa sikaoykire (sipao, oykire ⁽⁶⁷⁾ , e)	あげるので養われて
ヤッカ ピリカ クナク ラム ヤクン	
yakka pirka kunak ramu yakun	もよいと思うのであれば
アポ ウタリ アコレ クス ネナー	
a=po utari a=kore kusu ne na”	子供たちをあげますよ
セコル ハウエアナン ルウェ ネ アクス	
sekor hawean=an ruwe ne akusu	と私が言うと
エ アラキンーネ エ ヤイコプンテッ パ コロー	
earkinne eyaykopuntekpa kor	とても喜びながら
ネ カッケマツ ネ ヤッカ ニシパ ネ ヤッカ	
ne katkemat ne yakka nispa ne yakka	奥さんも長者も
エヤイコプテ、プンテッ コロ	
eyaykopuntek kor	喜んで
ネーノ ネ ヤクン ピリカ ハウエ ネー	
“nenō ne yakun pirka hawe ne	「そうなったら嬉しいことです。
ア、ター アコロ ワ オカイペ カ	
(a) ta a=kor wa okay pe ka	ここに持っているものも
ポサカン ヤクン アナクネ	
posak=an yakun anakne	私の子供がいなかったならば、
ネン カー ウウォマレー ワ イコロパレ	
nen ka uwomare wa i=korpare	なんとか集めて??、私に (子を) くれる
ウタラ カ アエランペウテッ ノ	
utar ka a=erampewtek no	人たちも知らずに
アナン ルウェ ネアプ	
an=an ruwe ne a p	いたのですが
アコンニシパ ポホ マツネポ	
a=kor nispa poho matnepo	旦那さんの男の子と女の子を
イコレー ワ ネ ヤクン パクノ	
i=kore wa ne yakun pakno	くれるのでしたら、これほどの
ピリカ ハウ イサム ペ ネ セコル	
pirka haw isam pe ne” sekor	よい話はないです」と

(67) シパオオイキレまたはシパオイキレが言い誤りであることは上田氏に確認済み (音声資料 CC000345)。シカ
オイキレ sikaoykire を「養って」としていたがモニターAの指摘で「養われて」に訂正した。

ハウェオカパ コロ エヤイコブンテッパー	
haweokapa kor eyaykopuntekpa	言って喜んだ
ヒ クス オラー ア、ホシピアン クナッ	
hi kusu ora (a) hosipi=an kunak	ので、私は帰ると
イエ、アイエ アクス ウー、ナニ スイ	
(ye) a=ye akusu (u) nani suy	言って、すぐにまた
サナン クス ネ、ネ ヒ アイェ コロ	
san=an kusu (ne) ne hi a=ye kor	下がって来るつもりであることを言うと
オラー ウサ オカイペ、エ、	
ora usa okaype (e)	それからいろいろなものを
ピシ、ピシ タ アン ペ ネ クス ウサー	
(pis) pis ta an pe ne kusu usa	浜に暮らしている人たちなので
ピ、ピスン ウー、イ、イカオセッ	
(pi) pis un, (u) (i) i=ka ose p ⁽⁶⁸⁾	浜の土産を
ポロンノ サンケ ワ イコレヲ ネ クス	
poronno sanke wa i=kore p ne kusu	たくさん出してくれたので
ポロ シケ ネ ワ	
poro sike ne wa	大きな荷物を作って
ホシピアン コロ オラーノ エカン ヒネ	
hosipi=an kor orano ek=an hine	帰って来て
スイ ネア チキサニー、カッケマツ オロタ	
suy nea cikisani katkemat oro ta	また例のハルニレの婦人のところで
シニアン コロ、オロタ スイ シ、シニアン コロー	
sini=an kor oro ta suy (si) sini=an kor	休みながら
ヤイライケ アンー オルシベ アイェ ア アイェ ア	
yayrayke=an oruspe a=ye a a=ye a	感謝の言葉を重ねて言い
コル イチャラパ アン ネヤー	
kor icarpa=an ne ya	ながらご馳走を撒くやら、
ワッカ ウシ カムイ ネ ヤッカ ア、	
wakka us kamuy ne yakka, (a)	水の神様にも
アコヤイライケ ヒ アイェ コル オ	
a=koyayrayke hi a=ye kor (o)	感謝の言葉を言いながら

(68) ローマ字を i=kaosep と一語の形で記していたがモニターBから分離動詞であることを指摘されて訂正した。金田一京助や知里真志保らが「第三類の動詞」と名付けたこのような動詞について最新の研究成果は佐藤知己「アイヌ語千歳方言の「第三類の動詞」の構造と機能」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第7号(2001)に詳しい。

イチャラパアンー ヒネ オラー	
icarpa=an hine ora	ご馳走を撒いてから
ホシピアン ヒネ アウニ タ	
hosipi=an hine a=uni ta	家に帰って
エカン ヒケ アコルソン ウタラ カ	
ek=an hike a=kor son utar ka	来たところ、私の子供たちも
アプンノ オカ ヒネ アコシレパ	
apunno oka hine a=kosirepa	無事において、そこに到着
ルウェ ネ ヒネ オラー ノー スイ	
ruwe ne hine orano suy	してから、また
ナニ ネン イキアン コロ	
nani nen iki=an kor	すぐに私がいろいろしながら
アナン ラポッケ アマチ エウン	
an=an rapokke a=maci eun	いた時に妻へ
タツネ ネヒー ワ、アイエ	
tapne ne hi (wa) a=ye	このように言った。
アコルソンー シネ アポホ シネ マッカチ	
a=kor son sine a=poho sine matkaci	1人の男の子と1人の女の子を
エピシ ウ、ピシ タ アンー、ペトブッタ アンー	
(epis u) pis ta an, petoput ta an	浜の河口にいる
イシカラ ニシパ エウン アコレー クス ネ ヒ	
Iskar nispa eun a=kore kusu ne hi	イシカリの長者へあげるつもりであることを
アイェ アクス、アマチー カ	
a=ye akusu a=maci ka	言うと、私の妻も
イコラムオシマー ピリカ ヤク	
i=koramosma “pirka” yak,	私に同意して「いいよ」と
ピシ タ ニシパ ケムヌアン ヒケ	
(pis ta) nispakemnu=an ⁽⁶⁹⁾ hike	「長者さんも気の毒ですが
カッケマツ ケムヌアン クス アコロー	
katkematkemnu=an kusu (a=kor,)	奥さんも可哀相に思うので
ア ヘコテ ニシパー ネノ ラムー ワ	
a=hekote nispa neno ramu wa	私の旦那さんがそのように思って

(69) pis ta nispa kemnu=an と誤って記していたが、モニターAから pistanispakemnu=an の可能性があることを指摘された。訂正にあたって筆者は pis ta が不要であると判断し () で括り、その言葉を対訳しなかった。次行は katkemat kemnu=an としていたものを同様の指摘で katkematkemnu=an と訂正した。

ネ ヤクン ピリカ ルウェ ネ ヤッ	
ne yakun pirka ruwe ne” yak	いるのなら良いことです」と
アマチヒ カ イェ ルウェ ネ ヒネ オラ	
a=macihi ka ye ruwe ne hine ora	妻も言ったのでそれから
ナニー シネ マ、マッカチ シネ ポ	
nani sine (ma) matkaci sine po	すぐに1人の女の子と1人の男の子を
アトゥラ カネ ヒネ サナンー だか	
a=tura kane hine san=an (DAKA)	連れて出かけた。
ネ チキサニ サム タ シニアン ランケ コロ	
ne cikisani sam ta sini=an ranke kor	あのハルニレの木のそばで休んで
サナン ヒーネ、エ、イシカッタ サナン ヒ、ネ、	
san=an hine (e) Iskar ta san=an hine	イシカリの浜に下がって
ア、アフナーン、アフ、パー アークス	
(a) ahun=an (ahu, pa) akusu	(家に) 入ったところ
ネー マッカチ ヘカチ アトゥラ カネ	
ne matkaci hekaci a=tura kane	女の子と男の子を連れて
アフツァン ルウェネ アクス ネ ソレ、ハ	
ahup=an ruwe ne akusu (ne sore ha)	私が入って行くと
タネポ アフナン アー、アフツァン ペ	
tanepo (ahun=an a) ahup=an pe	今始めて入ったものなのに
ナーニ アフツァン ヒ ナーニ ネア、ア、	
nani ahup=an hi nani nea (a)	入るとすぐにその
オッカヨ ポイソン アナクネ	
okkayo poyson anakne	男の子は
ネア ニシパ テムニコロ オシマ、ア、	
nea nispa temnikoro ⁽⁷⁰⁾ osma (a)	旦那さんの腕の中に飛び込んだ。
マッカチ ネヤ、ネヒケ アナクネ	
matkaci neya, ne hike anakne	女の子の方は
ネ カッケマツ テムニコロ オシマ	
ne katkemat temnikoro osma	奥さんの腕の中に飛び込んだ。
ネーン カ ア エパカシヌ カ ソモキヲ	
nen ka a=epakasnu ka somo ki p	誰にも ⁽⁷¹⁾ 教えていなかったのに

(70) 上田氏は、「子供たちはいきなり家の主人が座っている膝の上に乗った」という主旨で説明された(音声資料 CC000344)。

(71) モニターBの指摘により、「誰も」としていたのを「誰にも」に訂正した。

ナーニ ネノ イキパツ ネクス
 nani neno ikipa p ne kusu
 ポーヘネ ネ ニーシパ ネ ヤッカ
 po hene ne nispa ne yakka
 カッケマツ ネ ヤッカ エ ヤイコブンテク
 katkemat ne yakka eyaykopuntek
 ア エパカシヌ カ ソモキヲ
 a=epakasnu ka somo ki p
 ネ アトゥラ ポイソン ウタン
 ne a=tura poyson utar
 ナーニ オナ コロ ウヌ コロパ シリ
 nani ona kor unu korpa siri
 アー、オクヌヌレー アポホ ネ カ
 a=okunnure a=poho ne ka
 ソモ ネ、ネー ニシパ ウタラ ポホ
 somo ne, ne nispa utar poho
 ネノ カネ、ナニ オナ コロパ シリ ネヤ
 neno kane, nani ona korpa siri neya
 ア、ア オクヌヌレ コロー オラーノ、オー
 (a) a=okunnure kor orano (o)
 エチョクヌレパ シリ アスカラ コロー
 ecoknurepa siri a=nukar kor
 オラーノ スイ トリ トウライ ネ
 orano suy tori tura hine
 オカアン アン、アナン アイネ オラー
 oka=an an an=an ayne ora
 ホシ、ホシピ アン クナク アイェ ヤッカ
 (hos) hosipi=an kunak a=ye yakka,
 タント ネ ホシピアン クナク ハウエアナン
 tanto ne hosipi=an kunak hawean=an
 ネー アコロ ソン ウタラ エウン
 ne a=kor son utar eun

すぐそのようにしたので
 なおいっそう旦那さんも
 奥さんも喜んだ。
 教えられもしないのに⁽⁷²⁾
 連れて来た子供たちが
 すぐに父親と母親を持った様子に
 私は驚いた⁽⁷³⁾。私の子では
 なくて、旦那さんたちの子供の
 ように、すぐに父親を持った様子に
 あきれていると
 何度も接吻している様子を見ながら
 そしてまた、そこに宿泊して
 いたあげく
 私が帰ると言っても…、
 今日は帰ると私は言った。
 子供たちへ

(72) モニターBの指摘により、「教えられもしないのに」としていたのを「私が教えもしないのに」に訂正した。

(73) このときの採録のあとで上田氏は「新しい親に子供がすぐ馴染んだのは、神様がそう仕向けているからだ」という主旨を話された。

アイェ ヤッカ イケサンパ、パ、ポーカ a=yē yakka i=kes anpa ⁽⁷⁴⁾ (pa) ⁽⁷⁵⁾ poka	言っても私の後を追いも
ソモキノ ネー オナハー ウヌファー ネ カ somo ki no ne onaha unuhu ne ka	せずに両親でも
ソモキヅ ネヒカ、オ、テムニコロ タ somo ki p ne hi ka (o)temnikoro ta	ない人の腕の中に
オカ シリー アヌカラ ア オクヌヌレ コロー oka siri a=nukar a=okunnure kor	いる様子を見て驚きながら
オラーノ ホシピ アン ヒネ、 orano hosipi=an hine	私は帰って
アウニ タ エカンー ヒケ カ、ア a=uni ta ek=an hike ka (a)	家に来るときも
イヨース アルキパ ルウェ カ イサム コルカ i=os arkipa ruwe ka isam korka	私の後を追わなかったけれども
オラーノー、オ イネ ハンパク ツヅ カ ネ コロ orano (o) ine hampak cup kane kor	それから数ヶ月もたって
オラー スイ マク、サナン ワー ora suy (mak,) san=an wa	再び浜へ下りて
インカラシネ ヤッカ、アフパン ⁽⁷⁶⁾ inkar=an ne yakka, ahup=an	みたけれども、(家に) 入って
ヌカラッパ ヤッカ ア、ネ、 nukarpa?? ⁽⁷⁷⁾ yakka, (a) ne	みても、
ア オナハ ネ アッ セコル a=onaha ne a p sekor	私が父親であったものだと
イエ カ ソモ キー、イエパ カ ソモキノー ye ka somo ki, yepa ka somo ki no	言うこともなく
オナ コルパ ウヌ コロ ona korpa unu kor	(新しい) 両親を持ち、
ピリカ オナ ピリカ ウヌ pirka ona pirka unu	良い父と母を

(74) ローマ字を i=kesanpa と一語の形で記していたがモニターBから分離動詞であることを指摘されて訂正した。

(75) モニターAの指摘でローマ字の誤記 po ka を改めた。

(76) モニターBから、複数形の「アフパン ahup=an」の語形はおかしいことを指摘されたが不詳。

(77) 動詞の後に人称接辞アン =an が付いていない。不詳。

コロバ シリ、ア オクヌレ コロー

korpa siri a=okunnure kor

ホシピアン ランケ パイエアン ランケ

hosipi=an ranke paye=an ranke

キー ラポッケ、エ、ネー ア、アコロパレ

ki rapokke (e) ne (a) a=korpare

アコル ソン ウタラ カ

a=kor son utar ka

ルヅネ シリ カ、 アスカラ

rupne siri ka a=nukar

ヤイカタ トウラノ オカアン

yaykata turano oka=an

ヘカッタラ カ ポロ シリ カ

hekattar ka poro siri ka

アスカラ コロ オカ アン アイネ

a=nukar kor oka=an ayne

ヤイカタ カ タネー ウコアツカサン カ

yaykata ka tane ukoapkas=an ka

アスクリ コロ アナン コルカ オラー

a=nukuri kor an=an korka ora

アポウタリー ウタシパ ウコパイエオカ

a=poutari utaspa ukopayeoka

ウコシネウパ シリ、アスカラー

ukosinewpa siri a=nukar

オラー ネア イシカラ プトゥフ ウン

ora nea Iskar putuhu un

ニシパ ウタラ カー、ア、ア、

nispa utar ka (a, a)

アコルパレ ポイソン ウタラ カ

a=korpare poyson utar ka

タネ ルヅネパ シリ ネ、ネ クス

tane rupnepa siri (ne) ne kusu

ア、ピリカ ヌスケパ シリー

(a) pirka nunukepa siri

持った様子にたまげながら

私が行ったり来たり

している間、私があげた

子供たちも

成長する様子を見ていた。

自分と共に暮らしている

子供たちも大きくなったのを

見ながら暮らしていると

自分も今では往来することが

難儀になったけれども

私の子供たちは互いに行き来して

一緒に遊んでいる様子を見ていた。

それから、イシカリの河口に住む

旦那さんたちも

私のあげた子供たちも

今は大人になったので

よく孝行している有様を

アスカラ ワー ウタシパー、ア、

a=nukar wa utaspa (a)

見て、お互いに、

ウ、ウ、ウコーケウトゥム サク、

(u u ukokewtumu sak⁽⁷⁸⁾)

…

ウコ、オ、サンペ ピリカノ オカアン ロク ヒーネ

ukosanepirka no oka=an rok hine

気だてよく暮らして

オンネ アン ペ ネ アクス アイェー

onne=an pe ne akusu a=ye

私は亡くなったのであると言った

セコル イシカルン ニシパ

sekor Iskar un nispa⁽⁷⁹⁾

と、イシカリの長者が

イソイタク セコン ネー ワー

isoytak sekor ne wa

物語ったとさ。

クイエ、エア、エアシ、エアイカプ コロカ

ku=ye (ea, eas) eaykap korka

私は言うのが下手だけれども

クイエ ハウエ ネー ヤクン ピリカノ

ku=ye hawe ne yakun pirkanu

言ったのだから、ちゃんと

ヌ ワ エンコレ ハウエアナニー

nu wa en=kore hawean ani.

聞いてちょうだいね。

(78) ウコケウトゥム サク ukokewtum sak 「お互いに気持ちなく??」では主人公が言い残そうとした言葉と反対の意味になるので対訳しない。ここはウコケウトゥムコロ ukokewtumkor 「示し合わせる (お互いに心を同じにする)」あるいはウコウエンケウトゥム サクノ ukowenkewtum sakno 「お互いに悪い気持ちを持たないで」と言おうとしたが、次に言い直したと思われる。

(79) イシカラ エトコ ウン ニシパ Iskar etoko un nispa 「イシカリ川の奥にいる長者」のことである。